

保護者のみなさま

平成 30 年(2018 年)2 月 6 日

豊能町立東ときわ台小学校
校長 末 広 亨

学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取り組みについて—

厳寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、本校では、学校教育活動の改善等のため、昨年 1 2 月に、児童・保護者・教職員に対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計して分析作業を行い、明らかになった課題に対して校内で協議を重ね、改善の方向性をまとめました。その間、1 月 2 6 日の学校協議会では各委員の方々よりご意見をいただきました。

集計結果をみると、ほとんどの項目において肯定的評価となっています。このことは、本校の教育活動に対してご理解を得られている部分が多いと考えることができ、本校として元気の出る結果となりました。しかしながら、質問 1 「学校に行くのが楽しい」において肯定意見が 1 0 0 %でないことに重きを置き、課題の見極めを行うとともに“楽しいと思える学校づくり”にさらに力を入れていく所存です。また、各質問で否定意見があることも真摯に受け止め、改善を進めていきたいと考えています。

以下に特徴的な項目について、結果の分析による自己評価、改善の方向性、及び学校協議会委員よりいただいた意見を関係者評価としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約を添付していますのでご覧ください。

今後も、「一人ひとりを大切にし、ともに学び・活動する喜びに満ちた学校」をめざし、
・ユニバーサルデザインに基づいた指導・支援の工夫を取り入れたどの子もわかる授業づくり
・互いに認め合い支え合う集団づくり
を大切に、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動を力強く進めていきます。そのため、保護者・地域の方々や関係機関との連携が大切になります。ご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

互いに認め合い支え合い、人権を大切にする集団作り	
分析による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 日々の集団づくりの実践や人権教育の取り組みに一定の成果がみられる。一方で、靴隠しなどのいじめ事象が生起しており、児童の思いの伝え方や人間関係の構築に関する課題も感じている。 「学校が楽しいと思えない」児童が昨年度に引き続きいるので、その理由や背景をつかみ丁寧に対応していく必要がある。 挨拶に関しては、肯定的な評価の割合が高いが、自分から進んで挨拶のできる児童は多くないと感じる。 自己肯定感に関しては、発達段階・単学級などの要因を意識した学級集団づくりをしていくと同時に、自己表現の仕方・相手の気持ちを考えるといったトレーニングも取り入れて学ぶ機会を設けていく。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 児童の困り感や悩みの早期発見・未然防止に努める。 普段から児童理解につとめ、児童の状況を教職員で共有する。 児童の小さな変化を見逃さず、学校全体でアプローチしていく。 肯定的な言葉かけを意識し、一人ひとりのがんばりを学級集団に返していく。その際、結果だけでなく、そこまでのプロセスも大切にする。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 単学級ということもあり、問題を一人で抱え込みがちになり教員が疲弊してしまうのではないか。学年団を十分に機能させるとともに、子どもたちの見守り等に地域をもっと巻き込んでいくことも必要である。
確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る	
分析による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 「授業が楽しくよくわかる」では、保護者の肯定的評価がここ数年減少傾向にある。このことを踏まえ、学習集団づくりや、基礎学力を定着させることをもとに、様々な活動を通して学ぶことの楽しさを追求することも大切にしなければならない。 家庭学習では、保護者・児童・教職員ともに肯定的評価が高かった。低学年からの積み重ねで、家庭学習の習慣が学校全体についてきている。保護者の理解や協力が得られていることが大きい。課題のある児童に対しても個別に丁寧に指導を重ねることができている。 読書に関しては、保護者・児童・教職員ともに数値の開きが大きい。保護者の期待ほど、児童が家庭で読書をしていないことが考えられる。今後も学校生活の中で読書活動を引き続き意識して取り組み、児童の意欲的な読書活動をめざして取り組むだけでなく、家庭での時間の使い方にも目を向ける必要がある。

改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の授業作りの工夫と児童の実態が離れていることも予測される。子どもの実態をふまえた授業づくりに取り組みたい。 ・ 学習指導の工夫や充実、研究を重ねる。教師側の授業スキルアップと児童の実態を把握した上での学習集団づくりをすすめる。 ・ 成果が現れている取り組みは継続していく。 ・ 宿題や家庭学習においては、引き続き習慣づけることと、家庭学習の目的や進め方、家庭での時間の使い方の啓発などを児童に提示、家庭へと発信していく。 ・ 読書指導の見直しを行う。図書館司書との連携をとり、教科と関連付けた「本」の活用にもとりくむ。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事の話や学校生活の話はしても、授業について親子で話をする機会は少ないように思われる。授業や学習についても、もっと家庭でのコミュニケーションをとってほしい。 ・ 主体的な学び、アクティブ・ラーニングなど求められるものが増えてきている。変化の時期で教員も大変であるが、自信を失わずに授業改善に取り組んでほしい。 ・ 本を読んで必要な知識を自ら手に入れる力が今後必要とされてくる。活字と触れ合える機会をこれからも積極的に取り入れてほしい。
日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する	
分析による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者も教職員も、学校行事に取り組む子どもたちから前向きな姿勢を感じ、評価している。 ・ 学年を超えて遊ぶ児童がいる反面、外遊びをしていないと感じている児童もいるので、担任で外遊びの仕掛けをし、自主性を持って楽しめるように考える。 ・ 外遊びをしている学年と、そうでない学年が分かれている。また、クラス遊び以外で外に出る児童は多くない。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての児童が学校行事を通じて充実感や達成感を味わえるよう、児童が主体となって活動できるようにする。 ・ 引き続きたくさん子どもたちが外で遊べるよう、体を動かす機会を意図的に設ける。 ・ 体を動かすことで得られる効果は高い。子どもが体を動かすことの喜びを感じられるように、教職員も子どもたちと体を動かす機会を持つよう意識する。

関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員で連帯し、運動会や学習発表会等の行事に一生懸命取り組んでおられ、子どもたちも達成感を持っていると思う。
地域に学び、保護者や地域との連携につとめる（学校経営に関して）	
分析による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校だよりや学年の様子などをホームページにのせ更新しているが、学校の様子を知らせるページが更新できなかった。 ・ 警報が出た時に、学校に問い合わせが複数あった。年度当初に保護者に配布している「警報発令時等における登下校の対応について」の内容が十分周知できていない。 ・ 不審者対応について、講師を招いて夏季に研修を行い、学びを訓練に活かすなど教職員の意識が上がってきている。 ・ 地域ボランティアの登下校の見守りは評価されているが、より緻密な計画、さらなる対策が求められている。 ・ 現在の施設・設備は十分に満足できる状態とは言えず、保護者記述にも施設の老朽化に関する意見、暑さ・寒さ対策の充実を求める意見がある。 ・ 傘立て、靴箱、トイレ、掃除ロッカーなど校内環境整備に全教職員で取り組んだことは肯定的評価につながった。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特活の取り組みの様子を伝えるなど、学校生活の様子を伝えるページを更新し、情報提供の充実をはかる。 ・ 警報が発令されていることを緊急メールではお知らせしないと町の小学校全体で決めて保護者にもお便りを配布した。年度当初に警報発令時等における登下校の対応について、P生指や保護者が集まる機会に周知を徹底していきたい。 ・ 校区内で施設建設の工事が始まることもあり、通学路や集合場所の安全性について、再度点検し改善する。 ・ 授業やクラブ支援、校内や花壇の整備等、多くの場面でボランティアの方々に協力いただいていることを校外や保護者により知らせていく。 ・ より充実した内容をボランティアの方々とともに考えていく。 ・ 空調設備の設置等、改善希望の多いところから改善できるよう引き続き町へ伝える。また、教職員でできることやPTAに協力願うことを具体的に提示していく。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ HPの充実に関して、PTA広報委員会の活用なども考えられる。 ・ 地域の高齢者の中には、培った経験や知識を生かして学校の手伝いをしたいという声もある。より学校と地域との連携をはかってほしい。

